（国際会議報告）
国立長寿医療研究センター主催
「Independent Ageing Expo and Convention 2023」

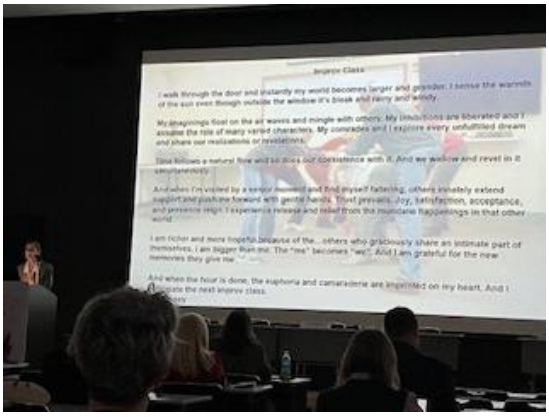
1　日程
　10月13日（金）～15日（日）
2　場所
　愛知県国際展示場（愛知県常滑市セントレア中部国際空港島内）
3　参加
　のべ950人（主催者発表）11か国の研究者、社会福祉政策担当行政関係者
4　協力
　愛知県、国際長寿センター、ケネスグループほか
5　本市取組紹介について
　国立長寿医療研究センター荒井秀典理事長による開会挨拶後、米国コロンビア大学ジョン・ベアード氏「世界の高齢化：現状と将来像」、ITエバンジェリストの若宮正子氏「80歳からでも人は成長できる」と題した基調講演が行われた。続いて、荒井会長進行でパネルディスカッションが行われ、全講演で英語と日本語の同時通訳があり、様々な国と立場の参加者がイヤホンを通して内容を理解した。
　その後、愛知県知事 大村 秀章氏および厚生労働省老健局長 間隆一郎氏による来賓挨拶があり、休憩後は3室同時進行で講演とパネルディスカッションが会議３日間を通じて行われた。
　本市の取組紹介は、初日午後のメインホールにおける「高齢者にやさしい環境と文化」の回に含まれ、国際長寿センターのシルビア氏の進行のもと、ＷＨＯエイジフレンドリーシティ担当のティアゴ氏「高齢者にやさしい街とコミュニティ作りを進めるＷＨＯグローバルネットワーク」（エイジフレンドリーシティの推進ＰＲ）、本市「高齢者にやさしい街づくりー秋田市の事例」、英国ロンドン大学のクリス氏「インクルーシブ・デザインが創出するポジティブエイジング」（高齢者に対応した日常のデザインについて）、米国プリンス・ジョージス大学のルース氏「インプロヴィゼーションとクリエイティブエイジング」（氏が取り組む演劇をツールにした高齢者対策について）の順に講演を行った。
　本市の講演では、本市が日本初のＷＨＯグローバルネットワーク参加都市として12年間、コインバス事業を始め市全体でエイジフレンドリーの視点をもつ事業を行う中、直近の意識調査結果から認知度向上を目標に第３次行動計画内のプロモーション事業を展開しており、いくつになっても自分らしく暮らせる高齢者にやさしい都市をめざし、３者協働で取り組む旨を発表した（別紙資料参照）。
　パネルディスカッションでは、世界でもっとエイジフレンドリーシティに取り組む都市が増えるべきではないかという質問もあり、ＷＨＯはこれまでの実績について答える場面もあった。

会場施設

ティアゴ氏講演（WHO、エイジフレンドリーシティの紹介）

本市取組紹介

クリス氏講演（英国王立大学、インクルーシブデザインによる高齢者対応）



ルース氏講演（米国プリンスジョージス大学、演劇を取り入れた高齢者施策）

講演後のパネルディスカッション